

現況分析における顕著な変化に ついての説明書

教 育

平成 2 2 年 6 月

筑波技術大学

目 次

1. 産業技術学部	1
-----------	---

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 筑波技術大学

学部・研究科等名 産業技術学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 IV. 学業の成果

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 学業の成果に関する学生の評価

産業技術学部では、学生による授業評価を継続実施し、各教員にはその結果をフィードバックし、今後の授業改善等の具体的内容を書類で提出させるとともに、シラバスにオフィスアワー時間を表記し、個別対応の充実を図るなど、学生による授業評価を授業改善に役立てている。

各年度における設問の評価平均点（5段階評価）を、教養教育系科目と専門教育系科目に分けて表に示す（資料Ⅳ－1）。平成21年度の教養教育系科目の評価結果を見ると、すべての項目が平成18年度に比べ評価平均点が伸びている。これは各年度の授業評価に基づく改善の成果であると分析できる。また、専門教育系科目の評価結果を見ると、すべての項目が各年度ともほぼ同じ平均点である。これは、学年進行によって授業が高度化する状況のなかで、各年度の授業評価に基づく改善が評価平均点を維持していると考えられる。

なお、平成16～19年度評価において、フィードバックが可能であったのは、1学年分の授業評価結果のみであり、主に基礎教育系科目及び専門基礎教育科目がその対象であるという限定された状態であったため、学生の具体的な評価結果について記述していなかった。しかし、平成21年度に4学年分の授業評価が可能となり、詳細な評価分析を行うことができたため、評価結果（段階判定）を変えうるような顕著な変化があったと判断した。

資料Ⅳ－1 学生による授業評価結果

【5段階の定義】 5＝そう思う 4＝ややそう思う 3＝どちらともいえない 2＝あまりそう思わない
1＝そう思わない

【教養教育系科目】

質問事項	18年度	19年度	20年度	21年度
Q1. シラバスは授業の内容を知るうえで参考になりましたか。	3.5	3.4	3.4	3.6
Q2. 板書、視覚教材、資料、教科書などは効果的に使用されていましたか。	4.0	3.9	4.0	4.1
Q3. 学生の理解を助けるためには教員は各種の補助手段を適切に用いていましたか。	3.8	3.8	3.9	4.1
Q4. 授業を進める速度は適切でしたか。	3.7	3.5	3.7	3.8
Q6. 教員の説明の仕方は適切でしたか。	3.7	3.6	3.8	3.8
Q7. 授業に対する教員の熱意を感じましたか。	3.8	3.7	3.9	3.9
Q8. 教員とあなたの間で意思疎通ができましたか。	3.4	3.4	3.6	3.7
Q9. 受講の結果、あなたはこの分野に対する理解と関心が深まりましたか。	3.6	3.6	3.7	3.8
Q12. この授業はあなたにとって、よい授業だったと思いますか。	3.7	3.8	3.9	3.8

【専門教育系科目】

質問事項	18年度	19年度	20年度	21年度
Q1. シラバスは授業の内容を知るうえで参考になりましたか。	3.5	3.5	3.5	3.5
Q2. 板書、視覚教材、資料、教科書などは効果的に使用されていましたか。	3.9	3.8	3.9	3.9
Q3. 学生の理解を助けるためには教員は各種の補助手段を適切に用いていましたか。	3.8	3.8	3.9	3.9
Q4. 授業を進める速度は適切でしたか。	3.6	3.6	3.6	3.6
Q6. 教員の説明の仕方は適切でしたか。	3.6	3.6	3.6	3.6
Q7. 授業に対する教員の熱意を感じましたか。	3.7	3.7	3.7	3.7
Q8. 教員とあなたの間で意思疎通ができましたか。	3.6	3.5	3.5	3.6
Q9. 受講の結果、あなたはこの分野に対する理解と関心が深まりましたか。	3.7	3.7	3.7	3.7
Q12. この授業はあなたにとって、よい授業だったと思いますか。	3.8	3.8	3.8	3.8

※ Q5（授業内容の難易度は適切でしたか）は「丁度よかった」が3で評価され、5段階評価で表せないこと。また、Q10（この授業に対するあなたの取組姿勢はどうでしたか）及びQ11（この授業に関連して積極的に調べたり予習復習をしたりしましたか）は学生自身のことについて聞いているので上記資料から除いた。

（アンケート調査報告書をもとに作成）